

---

# 金庫

回線スピード計画

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

金庫

### 【Nコード】

N3262Z

### 【作者名】

回線スピード計画

### 【あらすじ】

回線スピード計画の話

警報機の音によって、大富豪の相川は無理やり叩き起こされた。

「ん…？ 一体何の警報だ？」相川は半分寝ぼけながらも、一体何の警報かを確認する。周りに大量に設置された警報機を一つ一つ確認して行つて、警報が鳴っているのは、現金が入っている、家に一つしかない金庫の警報機だと気付いた。

「まずい…あの金庫は…！」金庫の警報だと気付き、一気に眠気が吹き飛んだ相川は、急いで階段を下り、地下三階に置いてある金庫の元へと向かった。

相川が金庫の元に着いてみると、地面にしつかりと固定された銀色の金庫は、すっかり荒らされていた。鉄のダイヤルは無理やり外されており、バールのような物を使って、金庫はこじ開けられて、半開きになっていた。相川は無駄だと分かつてはいたものの、念のために金庫の中を覗いて確認してみたが、やはり中に入っていた現金数百万円がごっそり無くなっていた。

「無くなっているな…。まあ、これが残っているのは良かった。これが無くなっていたらと思うと…」相川は金庫を見ながら安堵する。「どこの強盗団だか知らないが、多分奴らは『なんで大富豪なくせに、金庫が一つしかなく、しかも現金数百万しか無いんだ？』と思つた事だろう」

相川はそう呟きながら、ボロボロになつた金庫の外側の鉄板を外していく、すると内側から、黄金に輝く金庫が姿を現した。

「まさか、資産のほとんどを、外側が鉄で覆われている純金製の金庫を作るのに使つたなんて、想像もしないだろうなあ。現金に換えたかったら、内側の純金を溶かしてもらつて、延べ棒に変えて貰えば良いし」相川はしたり顔になった。

(後書き)

某スレに投稿しようとした物。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3262z/>

---

金庫

2011年12月11日10時46分発行